

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会

平成30年10月2日(水) 午後3時～
先端研究産業支援センター共用棟 大会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報告・協議

- (1) 第2次鶴岡市総合計画（構成素案）について
- (2) 未来創造のプロジェクトの設定について（素案）
- (3) 「めざす都市像」について
- (4) 「まちづくりの基本方針」について

4 そ の 他

5 閉 会

資 料 一 覧

- 1 第5回鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会次第(裏面:資料一覧)
- 2 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員名簿(裏面:席次表)
- 3 資料

※当日配布資料

- 1) めざす都市像 資料 1
- 2) まちづくりの基本方針 資料 2
- 3) 第2次鶴岡市総合計画 (構成素案) 資料 3
- 4) 未来創造のプロジェクトの設定について(素案) . . . 資料 4

※参考資料

- 1) 第4回鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会
会議概要(会議後意見含む) 参考資料 1
- 2) 第3回鶴岡市総合計画審議会会議概要 参考資料 2

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

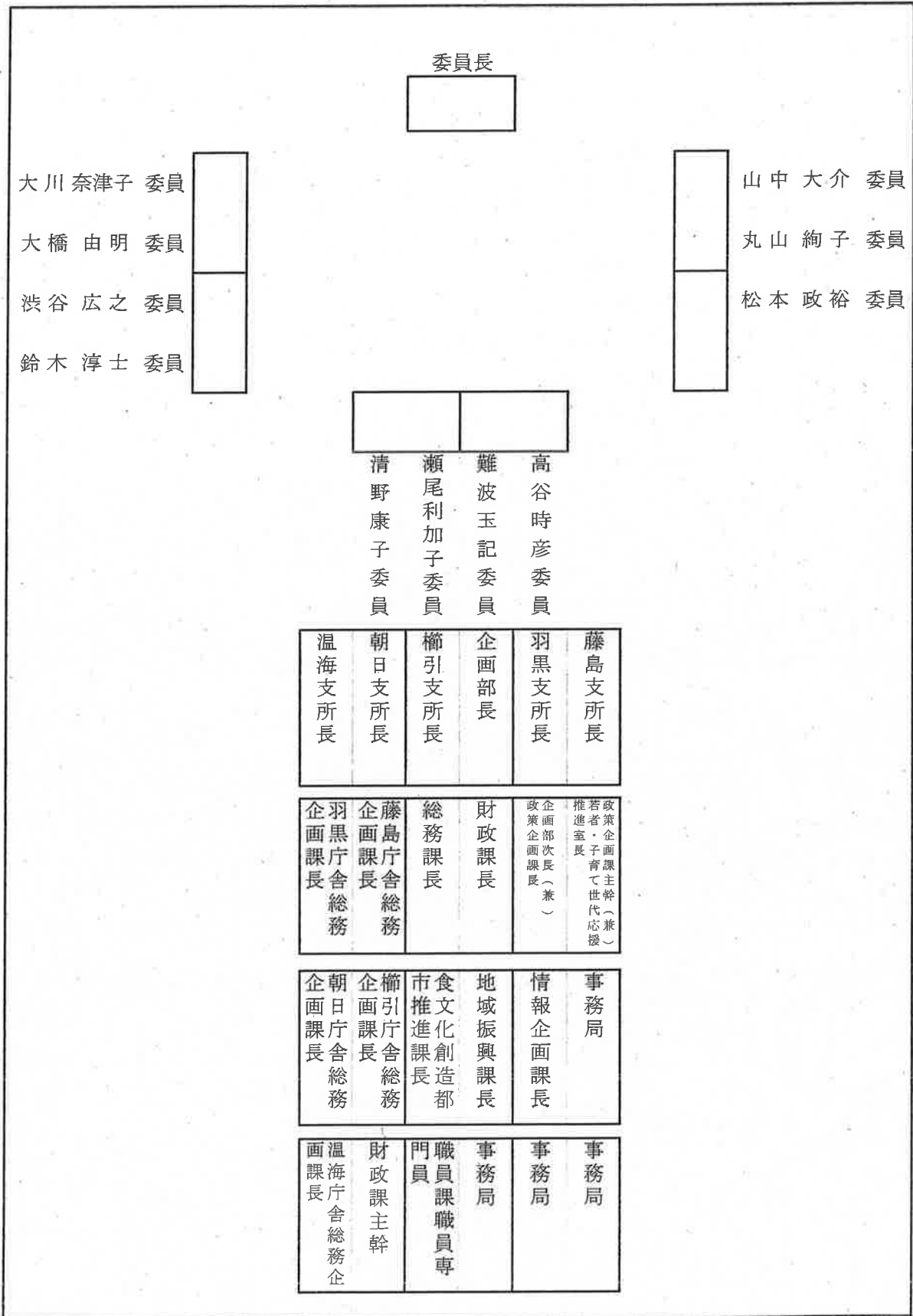
No.	氏 名	役 職 名 等
1	大 川 奈津子	主婦の店鶴岡店代表取締役社長
2	大 橋 由 明	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ取締役研究本部長
3	小 沢 亙	産業専門委員会委員長
4	渋谷 広 之	連合鶴岡田川地域協議会事務局長
5	鈴木 淳 士	市民文教専門委員会委員長
6	清 野 康 子	鶴岡市地域コミュニティ活性化委員会委員
7	瀬 尾 利加子	瀬尾医療連携事務所代表取締役
8	平 智	山形大学農学部教授
9	高 谷 時 彦	社会基盤専門委員会委員長
10	難 波 玉 記	厚生専門委員会委員長
11	松 本 政 裕	生活協同組合共立社常任顧問
12	丸 山 絢 子	元鶴岡地域審議会委員
13	大 和 匡 輔	鶴岡織物工業協同組合理事
14	山 中 大 介	ヤマガタデザイン代表取締役
15	渡 部 志 津	公益社団法人鶴岡青年会議所監事

任期：平成30年2月1日～平成32年1月31日

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会 座席表

30.10.2(火)

鶴岡市先端研究産業支援センター 共用棟 大会議室



めざす都市像

【委員提出元データ（アイウエオ順一部変則）】

愛ある優しい暮らしがある街 つるおか

いいよ 鶴岡 かわったよ 鶴岡 語ろうよ 鶴岡

暮らしていくことで、未来が見える都市 鶴岡

心豊かにくらせるまち

食が育むまち・鶴岡

豊かな自然と創造的なくらし ー田園環境文化都市 鶴岡ー

楽しく“まめ”にくらせるまち 食文化だけじゃない「ある。」衣・食・住

地域に暮らす私たちが、地域の未来にワクワクする街。

鶴岡市の『歴史、伝統、文化』を継承・発展させ、各地域の特質を最大限に活用しながら、個性豊かな『ひとづくり・まちづくり』を基本に、創意と活力にあふれる『輝くまち鶴岡』を創造します。

歴史と伝統文化、気品のある街 品位と品格のある街

豊かな自然、農業と食文化、学術と産業による個性豊かなまち、鶴岡。

人と時と自然と。 共に未来を創造する みんなに優しいまち 鶴岡

毎日、おいしい。ここで、暮らしたい。

歴史に学び未来を創造する全てに優しいまち 鶴岡

まちづくりの基本方針（委員提出の元データ）

1	『 官民協働を推進します 』
2	『 少子高齢化社会に対応します 』
3	『 6つのふるさとの持続的発展をめざします 』
4	『 官民協働の下、自立分散型のまちづくりを推進します 』
5	『 少子高齢化社会に対応したまちづくりを推進します 』
6	『 伝統と創造が息づくまちづくりを推進します 』
7	『 伝統・文化の継承と発展を推進します 』
8	『 人と自然・資源が持続的に循環するまちづくりをめざします 』
9	『 みんなに優しく満足度の高いまちづくりをめざします 』
10	『 官民協働を推進し、市民が主役のまちをめざします 』
11	『 すべての人の健康で安心・安全な暮らしを守ります 』
12	『 歴史・文化を継承しながら6つのふるさとの持続的発展をめざします 』
13	『 交通ネットワークの整備に関することを載せてほしい（タクシーやバスなどの運行を含めて） 』
14	『 市民参加型と実現化する動きが出来る事への期待が見えるコトバ』
15	『 伝統文化も残しつつ交流人口・新しい創造が出来るイメージ 』
16	『 伝統と創造が息づくまちをめざします 』
17	『 人にも環境にもやさしいまちをめざします 』
18	『 自学自修、個性を認め、皆で築くまちづくりをめざします 』
19	『 すべての世代が活躍できる地域づくりを目指します 』
20	『 自然・歴史・文化を伝承します（観光・食文化の発信等） 』
21	『 産業育成と消費のネットワーキングを大切にします 』
22	『 市民が自ら考え・自ら行動する、市民主導型の都市づくりを推進します 』
23	『 子どもも高齢者も平等に支援が受けられる福祉重視型のまちづくりを目指します 』
24	『 過疎や人口減少を乗り越え、活力に溢れた暮らし優先型の地域づくりを進めます 』
25	『 市民協働で一人一人の幸せをつくります 』
26	『 6つの地域特性を大切に、新しい創造をめざす 』
27	『 暮らしを守ります 』
28	『 人と環境の多様性を尊重します 』
29	『 多様な人々が誇りと品格をもってくらすまち 』
30	『 伝統とチャレンジ精神がいきるまち 』
31	『 食と農を基盤に人・もの・くらしが循環するまち 』

まちづくりの基本方針（委員提出の元データ）

【追加】

32 『 自然と共生する街づくりを推進します 』
33 『 歴史文化を尊重する街づくりを推進します 』
34 『 市民が総活躍する街づくりを推進します 』
35 『 少子高齢化を克服し、しあわせを感じるまちづくりに取り組みます 』
36 『 地域の個性を活かした産業の発展をめざします 』
37 『 産官学をつながり推進します 』

まちづくりの基本方針（ブルーピング&表札（的）づけ）

16	『 伝統と創造が息づくまちをめざします 』	↑	伝統と創造の力でまちづくりを進める
6	『 伝統と創造が息づくまちづくりを推進します 』		
30	『 伝統とチャレンジ精神がいきるまち 』		
2	『 少子高齢化社会に対応します 』	↑	少子高齢化社会へのまちづくりを進める
5	『 少子高齢化社会に対応したまちづくりを推進します 』		
27	『 暮らしを守ります 』	↑	皆の暮らしを守るようまちづくりを進める
11	『 すべての人の健康で安心・安全な暮らしを守ります 』		
23	『 子どもも高齢者も平等に支援が受けられる福祉重視型のまちづくりを目指します 』		
24	『 過疎や人口減少を乗り越え、活力に溢れた暮らし型地域づくりを進めます 』	↑	住み続けられるまちづくりを進める
13	『 交通ネットワークの整備に関することを載せてほしい（タクシーやバスなどの運行を含めて） 』		
8	『 人と自然・資源が持続的に循環するまちづくりをめざします 』	↑	資源等をつなげてまちづくりを進める
31	『 食と農を基盤に人・もの・くらしが循環するまち 』		
21	『 産業育成と消費のネットワークを大切にします 』	↑	新しいものを創りだすまちづくりを進める
15	『 伝統文化も残しつつ交流人口・新しい創造が出来るイメージ 』		
26	『 6つの地域特性を大切に、新しい創造をめざす 』	↑	継承発展のまちづくりを進める
3	『 6つのふるさとの持続的発展をめざします 』		
12	『 歴史・文化を継承しながら6つのふるさとの持続的発展をめざします 』		
7	『 伝統・文化の継承と発展を推進します 』	↑	分け隔てのない皆が輝くまちづくりを進める
20	『 自然・歴史・文化を伝承します（観光・食文化の発信等） 』		
9	『 みんなに優しく満足度の高いまちづくりをめざします 』	↑	人、環境を大切にしたいまちづくりを進める
19	『 すべての世代が活躍できる地域づくりを目指します 』		
28	『 人と環境の多様性を尊重します 』	↑	市民協働でまちづくりを進める
17	『 人にも環境にもやさしいまちをもつてくらすまち 』		
29	『 多様な人々が誇りと品格をもつてくらすまち 』	↑	市民の力を生かしてまちづくりを進める
1	『 市民協働を推進します 』		
4	『 市民協働の下、自立分散型のまちづくりを推進します 』		
10	『 市民協働を推進し、市民が主役のまちをめざします 』		
14	『 市民参加型と実現化する動きが出来る事への期待が見えるコトバ 』		
25	『 市民協働で一人一人の幸せをつくります 』		
22	『 市民が自ら考え・自ら行動する、市民主導型の都市づくりを推進します 』		
18	『 自学自修、個性を認め、皆で築くまちづくりをめざします 』		

まちづくりの基本方針の整理(たたき台)

伝統と創造の力で、地域の個性を磨き、つるおかというまちの魅力をよりいっそう高めます

伝統と創造の力でまちづくりを進める

新しいものを創りだすまちづくりを進める

継承発展のまちづくりを進める

少子高齢化社会に向き合い、ここならではの資源をもっと活かして、安全で安心なまちを築きます

少子高齢化社会へのまちづくりを進める

皆の暮らしを守るようまちづくりを進める

住み続けられるまちづくりを進める

資源等をつなげてまちづくりを進める

人にも環境にもやさしい、みんなの命が輝く、持続可能な循環型のまちづくりを、市民と行政が力を合わせて進めます

分け隔てのない皆が輝くまちづくりを進める

人、環境を大切にしたいまちづくりを進める

官民協働でまちづくりを進める

市民の力を生かしてまちづくりを進める

第2次鶴岡市総合計画（構成素案）

基本構想 編

第1 はじめに

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の構成と期間
 - (1) 基本構想
 - (2) 基本計画
 - (3) 計画期間
- 3 前計画の策定からこれまでの経過
- 4 計画の背景と課題

第2 めざす都市像とまちづくりの基本方針

1 めざす都市像

『

企画専門委員会で検討中

』

2 まちづくりの基本方針

・ 『

企画専門委員会で検討中

・ 『

・ 『

第3 施策の大綱

- 1 地域の生活環境を保全し、一人ひとりの心が通い合い、お互いを見守り、支え合い、安心して暮らしていける地域コミュニティを構築します
- 2 市民一人ひとりが生涯を通じて安心して健やかに暮らすことができる健康福祉社会を形成します
- 3 歴史と伝統に育まれた優れた文化のもと、ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人間の育成に向けて学びや体験ができる環境を整えます
- 4 人が集いチャレンジできる資源・経済循環型の魅力ある農林水産業、農山漁村を形成し、農林水産業の産出額のさらなる拡大と農林水産業者の所得向上を目指します
- 5 市民の暮らしを潤す力強い産業を振興するとともに、地域経済を支える人材を育てながら、新しい時代の交流を図り、多くの人をひきつける地域をつくります
- 6 地域の生活や活動を支える基盤を整えるとともに、交通・情報ネットワークをさらに充実させて市域内外の交流を拡大します
- 7 各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

第4 計画の指標

- 1 人口と世帯
 - (1) 総人口
 - (2) 年齢別人口
 - (3) 就業人口
 - (4) 世帯
- 2 土地利用
 - (1) 農用地
 - (2) 森林地域
 - (3) 海岸部
 - (4) 市街地
 - (5) 工業用地
 - (6) 低未利用地

第5 計画の推進方針

- 1 対話と協働による政策推進
- 2 効果的で効率的な行財政運営

基本計画 編

第1 基本計画の内容

- 1 地域の生活環境を保全し、一人ひとりの心が通い合い、お互いを見守り、支え合い、安心して暮らしていける地域コミュニティを構築します
- 2 市民一人ひとりが生涯を通じて安心して健やかに暮らすことができる健康福祉社会を形成します
- 3 歴史と伝統に育まれた優れた文化のもと、ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人間の育成に向けて学びや体験ができる環境を整えます
- 4 人が集いチャレンジできる資源・経済循環型の魅力ある農林水産業、農山漁村を形成し、農林水産業の産出額のさらなる拡大と農林水産業者の所得向上を目指します
- 5 市民の暮らしを潤す力強い産業を振興するとともに、地域経済を支える人材を育てながら、新しい時代の交流を図り、多くの人をひきつける地域をつくります
- 6 地域の生活や活動を支える基盤を整えるとともに、交通・情報ネットワークをさらに充実させて市域内外の交流を拡大します
- 7 各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

第2 基本計画の取組方法

- 1 未来創造のプロジェクトの設定
- 2 PDCA サイクルによる計画の進行管理

未来創造のプロジェクトの設定について（素案）

1 未来創造のプロジェクトの設定

基本計画の推進にあたり、人口減少など単独の具体的施策の推進だけでは解決することの難しい課題や、部署横断で取り組むことで本市の持つ強みや特性がより発揮され、相乗的な効果の創出が期待される主な取組を未来創造のプロジェクトとして設定します。プロジェクトは分野を横断する施策を抽出し、関連する部署が連携して次のような取組を進めます。

○若者・子育て世代応援プロジェクト

人口減少に正面から立ち向かい、若者や子育て世代に選ばれるまちづくりを進めるため、安心して子どもを産み育てることができる「育む」施策、意欲的に働くことができる「働く」施策、快適に暮らすことができる「住む」施策、生涯にわたる学習意欲を支援するための「学ぶ」施策、鶴岡での暮らしが楽しいと思える「遊ぶ」施策、結婚や地域・人とのつながりを大切にする「結ぶ」施策の6つの視点で、子育てが喜びとなり、鶴岡で子育てをしたいという人が増えるような環境を整備するほか、やりがいのある多様な働く場の創出による地元就職促進、性別にかかわらず個性と能力を発揮でき幸せに暮らせる地域社会の実現を目指します。

○未来先導型農業プロジェクト

農業は生命の源であり、食文化創造都市を標榜し、全国有数の農業産出額を誇る本市の基盤産業として、農業の発展は、他産業や地域経済の活性化に大きく寄与するものです。しかしながら、本市の基幹的農業従事者の高齢化が進み、人口減少に歯止め

がかからない現在、担い手や経営体の確保が喫緊の課題になっています。

将来にわたって基盤産業の農業を盤石なものとするため、人材の確保、先進技術を積極的に取り入れたスマート農業の実現、さらには、本市の特徴でもある循環型農業の積極的な取組みを通して、農業を中心とした地域の活性化と経済発展に貢献する「魅力溢れる農業・農村」の形成を目指します。

○食文化創造都市推進プロジェクト

本市食文化の特徴は、四季折々の自然と山・里・川・海といった変化に富んだ地形がもたらす豊かな食材と、それぞれの地域で伝承されてきた行事食・郷土食をはじめ市民が親しむ食の多様性にあります。また、稲作をはじめとする農林水産業とそれらを加工する食品製造業、酒造業などの地場産業と、それらに携わる人材により伝統技術が継承されてきたことも特徴とされています。

国内唯一のユネスコ食文化創造都市に認定された本市の食文化の特色とブランド力を、産業振興、交流人口の拡大、地域づくりに生かしていきます。

○知的産業イノベーションプロジェクト

本市では、慶應先端研などの先端的研究開発やベンチャー企業が次々と誕生しているとあったイノベーションの連鎖を活かした産業振興・成長産業化などによる新たな雇用が創出されています。

今後も、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」をつくる好循環（イノベーション・エコシステム）を発展させ、高等教育機関の集積という地域の強み、優位性を生かした研究教育活動の中から、付加価値の高い地域産業・魅力あるしごとづくりを促進して、若者がここで活躍したい、ここで暮らしたいと思える活力に溢れた知的産業を創出します。

○城下町つるおかりブランディングプロジェクト

酒井公入部 400 年（2022 年）、松ヶ岡開墾 150 年（2021 年）を控え、本市の高いポテンシャルを引き出すため、固有の歴史、優れた文化を広く内外に示しながら、城下町としての街並み整備、松ヶ岡の整備活用を図り、城下町鶴岡を改めてブランド化し、新たな学びと巡りを作り出すことで観光による交流人口の増大、産業、地域の活性化を図り、次の新たな歴史づくりを進めます。

そのため、まず、第一に藩政以来の今日までの歴史、文化を市民とともに学び、伝えられるようにすること、さらに、城下町の風情を守り伝えるため、歴史的建造物を保存・活用するとともに、街並みや景観などを上質な空間として整備し、市民にとって誇りとなり、訪れる人にとって憧れとなるまちづくりを進めます。

また、歴史文化を伝え街並みや歴史的資源を整備して城下町としての鶴岡の価値を高めることが国内外の来訪者を呼び込む新たな観光資源となるよう戦略的な観光プロモーションを展開します。

○思いやりと心かよう行政プロジェクト

行政サービスの質を高め、市民の想いや期待に寄り添うことのできる行政を目指し、職員一丸となって取り組んでいきます。あわせて、その前提となる、職員の働きやすさと働きがいをも高める「働き方改革」等の取組を推進し、市民、職員みんなが笑顔になることのできる環境を整備していきます。

この市民本位の考えに立ち、複雑多様化した社会や市民ニーズに対応しながら、市民窓口や相談体制の業務、広報広聴のあり方、重要施策の推進など市政運営全般にわたって丁寧な接客対応、的確な業務改善や施策等の協議・検討を進め、市民満足度を高めていきます。

鶴岡市総合計画審議会 第4回企画専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年8月27日(月) 午後3時から
- 会 場 庄内産業振興センター 第1・第2研修室
- 委員発言の概要

めざす都市像とまちづくりの基本方針の決め方について

- ・めざす都市像は一つ。まちづくりの基本方針は複数で、7つの章の上に3つくらいがのる形がよい。俯瞰して上から見て決めていきたい。委員意見を前もって集めて決める。

未来創造のプロジェクトについて

- ・プロジェクトがカギ。プロジェクトのコンセプトと章があって、やるべき姿が見えて良い。何をやるか取捨選択を示したことは評価する。
- ・6つのプロジェクトに優先順位があるわけではなく、1～6までの番号を振る必要はないと思う。一番目に子育てからやるのだというふうに理解されてはいけない。
- ・未来創造プロジェクトは、プロジェクトチームを組んで部署横断的にやらなければ出来ないものを6つ選んだだけで、これだけに取り組むという誤解を招かないようにする必要がある。未来プロジェクトは計画の後ろに載せるべきものではないか。
- ・「2. 未来先導型農業プロジェクト」については、「農業」と言うことで限定的になってしまうので、林業や水産業などの視点も加えた方がよい。
- ・各章からの積み上げで未来プロジェクトがつけられるのではなく、市民の議論の中からプロジェクトが生まれてくるものと思う。
- ・攻めと守りがあり、6つのプロジェクトは矛と盾の矛にあたる。
- ・市民の意見が何らかの形で表現されており、接点や共通点を持てる形のものが出せればよいと思う。市民が自信を持てるようなことを考えていかなければならない。

基本計画における地域振興の章について

- ・7つ目の章として「地域振興の章」をあえて項目立てする必要があるのか。せっかく合併しているのに、分断するような形が果たしてよいのか。
- ・鶴岡市は合併して一つのまちになっている。あえて分けることで対立軸に触れるような気がする。未来志向の中で、地域振興の章は不要ではないか。まちづくり基金事業にしても、旧町村で勝手に使いなさいというふうになってはいけない。
- ・各庁舎は生き生きと仕事をしていない。そこに喝を入れるため予算を持たせ、各庁舎が責任を持ってやるべき。庁舎が生き生きと仕事をするために予算・権限を与えなければならない。
- ・旧鶴岡市も一つの節として入れるべき。天神祭や赤川花火、海岸部の話も盛り込んでいくべきである。

- ・旧鶴岡市の中心部の方が、旧町村部よりも道路や下水設備の整備は遅れているように感じる。節として、鶴岡地域の課題として載せるべきではないか。
- ・各地域の役割は書き方次第ではないか。旧市町村ごとの得意な分野をプロジェクトとして役割を担うように書けないか。差別ややらされ感が生じないようにすることが必要。
- ・広い年代の人が共に生きている中で、6つのふるさとがあり、1つにしていくにはまだ時間がかかると思う。
- ・地区別の計画があるのはあたりまえだと思う。鶴岡地域の計画があってもいいと思う。
- ・中央、地方といった誤解がないような表現にしていくべき。ドライに6つの地域があるとしてもいいと思う。

構成等について

- ・基本構想の中に、計画の構成として基本構想、基本計画と表記されるとわかりにくい。
- ・基本計画の7つの章立ては良いが、未来創造のプロジェクトとの関連がよくわからない。市民の声が未来プロジェクトに反映されていることが大切。
- ・完成品の冊子は、読み手の年代やターゲットも考え、中学生くらいがわかるようになるべく行政用語を使わず、注釈などもつけて皆がわかるようにする必要がある。
- ・工程表のようなものがあれば良い。10年間でどこまでやるか、どうなるかとイメージ出来るようにするべき。
- ・住んでみたくなるまちに、この項目だけでなるのか。抜けているものを加える必要がある。
- ・総合計画は全体計画として抽象的になるので、ロードマップ的なものは実施計画の中で具体化していけばよい。

鶴岡市総合計画審議会 第4回企画専門委員会（会議後意見）

第4回企画専門委員会の会議後にメール・持参により提出された意見を以下に記載します。

基本構想について

- ・基本構想のIV3. 計画の推進の中で、Plan-Do-See (Check) のような、絶えず、振り返りしながら、推進していくというような考え方を記載してほしいです。事業の計画、実行、振り返りをしながら、次年度につなげていく、という形を作っていくしてほしいです。
- ・当日配布資料2-1, 2-2にある『自立分散型』という表現について、自立分散は中央集権の対置語として使われていますが、個別バラバラになっていくこととして受け止めるイメージを強く感じます。同義語としては、集中管理システムの対置語として『自律分散型システム』という表現があります。この『自律』という字句の方が、内容から考えても適切ではないかと思えます。

基本計画について

- ・基本計画において、第1章から第6章、及び地域振興の章という章立てになっていますが、地域振興の章について、その位置づけの説明をするとともに、市内と各地域のつながりのようなものが感じられるように表現していただきたいです。また、地域振興ビジョンや地域振興計画の上位概念にあたるものであれば、そういう内容も明記してほしいです。
- ・基本計画において、未来創造のプロジェクト（仮）について、上記と同様、その位置づけを明記する必要があると思えます。私の個人的な意見としては、各課横断プロジェクトという位置づけよりもこれから5年（ないし10年）の間、鶴岡市が特に重点的に行う施策を明記したほうがいいかと思えます。そのためには、基本構想にもその上位概念となる文章（大綱部分か、まちづくりの基本方針か）が必要とは思えます。何れにしても、単独の課や部でできる事業から、横断的かつ重層的な事業が今後ますます増えていくとは思えます。（公共交通ネットワーク一つでも、日常生活の中で考えるか、観光の中から考えるか、など。）だからこそ、各課横断プロジェクトとして記載するよりも一歩前に踏み込んで、攻めの姿勢というか、総合計画に明記していくしてほしいです。

施策の大綱について

- ・全体的に統一感がない。ワンセンテンスが長い、要点が伝わらない。文章は短く、欲張らないなどに注意してほしい。資料2の4ページのように課題で述べられていることが細節でも述べられている。現状と課題については、20・45・49ページのように細節と対応するように課題が述べられているものとそうでないものがある。
- ・第1章 地域コミュニティの構築とはマッチしていない節がある。コミュニティを構築するために地域の生活環境を保全する方がじっくりくる。5・6・7節。第2節、課題に上がっていないことが施策の方向で上がっている。（2）（3）（4）

- ・第3章 施策の大綱には都市交流も国際交流も示す事が述べられていない。
- ・第4章 人材の確保と労働力の確保は分ける必要があるのか？労働力の確保の内容を見ると露骨すぎる。ここは農業の魅力を伝えるとするのはどうか？農業教育。いい方はわからないが大人ではなく、子供にも食べることの大切さと共に農業の大切さを教える必要がある。

農林水産分野（畜産）について

- ・畜産に関する内容を入れた方がよい。他専門委員会でも意見が出されていましたが、畜産も担い手不足（※1）になっているが、全国的に畜産は農業総産出額の約3割を占め、食肉の消費量は増加傾向にある（※2）。
- ※1、庄内牛農家2か確か3農家、やまがた地鶏3農家、庄内彩鶏1社、羽黒緬羊1農家、高品質庄内豚（羽黒地区で4か確か5農家）。庄内牛農家も庄内豚農家も、確かここ5年で1～3農家程減少しているはずです。
- ※2、平成26年10月農林水産省生産局畜産部「養豚農業をめぐる現状と課題」より。
個人的な感覚ではありますが、1～2年に1名程度、畜産をしてみたいという方のお話を伺うことがあります。しかし、就農してから実際に収益を得るためには、最低でも2～3年はかかるため、個人の資力だけでは限界があるようです。一方で、現在、取引している農家さんのうち、後継者がいない畜産農家も多いので、やりたい人と後継が難しい人との橋渡しや、一人前になるまでの金銭面を含めたサポートが不可欠のようです。

地域振興の章について

- ・資料1の基本計画、「地域振興の章」及び資料2のP61以降の表現内容について、ここで表現されている内容は、平成の合併前の「町・村」を前提に、中央から見た地方として受け止められるのではないかと思います。旧町村在住の方に対する一定の配慮は当然必要なことだと思います。一方、旧鶴岡市内でも、例えば大山地域の年輩の方は、同様の地域意識をお持ちです。資料2のP61の（説明）に書かれている表現では、「地域に愛着を持ち」「移送距離が長い」「豪雪地帯」「配慮した対策」という視点からの設定と受け止めてしまいます。
- ・【「地域まちづくり未来基金」を活用して、地域に活力を与える事業】の視点は、旧町村、旧鶴岡市の地域全体の視点から見て、（1）特徴のある地域の個性を明確に強めていくことと、（2）中心部から離れた地域に配慮した計画的な施策を、これからの10年の期間で進める、という視点で、（説明）及び（各節）の記述にしたほうが良いのではと考えます。
- ・コミュニティ推進計画においてもこれまでそれぞれの地域における対策が講じられている。この章があると進めやすい面があるのではないかと？難しいのはそれぞれの地域、住んでいる方がどう感じるかは大切。「忘れられていない。考えてもらっている。」と感じるのか「一体感がない」と捉えられるのか・・・

未来創造のプロジェクトについて

- ・文章について、今後精査していくとは思いますが、「資料3（未来創造のプロジェクト）」P.20

公共交通ネットワークの確保について、「戦略的な観光の展開」という項目と文章内容が合っていないようです。

- ・ 未来創造のプロジェクトが必要であることの説明がほしい。
- ・ 食文化創造都市、先端生命研、シルク、出羽三山等を大人だけでなく、子どもにも素晴らしいものがあることを伝えることが必要。

総合計画の表し方について

- ・ できる限り、図や視覚的な要素を取り入れた計画を策定いただきたいです。どうしても文章に頼ってしまいやすいですが、あえて、図や表にして表現することで、単純化することを検討していただきたいです。
- ・ 4と5について、参考までに。例えば、横浜市の中期4か年計画（鶴岡市の実施計画にあたる？）ものだとこんな感じです。

[http //www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/chuki2014-/](http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/chuki2014-/)

基本構想、中期4か年計画、まちひとしごと創生総合戦略、単年度の各局区の運営方針のページ

[http //www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/kihon/](http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/kihon/)

- ・ この総合計画は、多言語版も作成予定ですか？鶴岡市における外国籍住民の割合を考えた上で、英語だけではない、多言語での作成も検討してほしいです。

参考 [http //www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/vision/sakutei-home.html](http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/vision/sakutei-home.html)

第3回 鶴岡市総合計画審議会（会議概要）

- 日 時 平成30年9月20日(月) 午前9時30分から
- 会 場 グランド エル・サン
- 委員発言の概要

構成素案について

- ・めざす都市像とまちづくりの基本方針は、前計画ではやや長い文章となっている。特にめざす都市像の場合は、どこの自治体にもあてはまるような内容だった。今回は、できるだけ市民に親しんでもらえる、覚えられるものにしたい。次の10年は鶴岡市はこうだ、ということを経営できる内容を目指していきたい。
- ・めざす都市像とまちづくりの基本方針を検討するにあたっては、積み上げ型でやっていくと、あれもこれもということになり、1つの都市像、3つの基本方針に絞るのが難しくなってくると考えている。重視したい着眼点を上から俯瞰するという視点で意見を出すように、企画専門委員会の委員にお願いする予定である。
- ・行政だけではなく、民間事業者や市民一人一人が主体となった取組が重要であると思う。どの分野でも行政だけでは対応できない課題もあり、市、市民、民間事業者が三位一体となってやるということがわかるようなものをまちづくりの基本方針にはぜひ入れて、その上での施策の大綱があるといいのではないかと感じた。

基本構想 施策の大綱素案について

- ・本文が長く、通読すると別々の人が書いた感じが否めない。やむを得ないのかもしれないが、全体を通してリライトするか、あるいは施策の体系図との関連で、大綱本文の段落ど、施策の体系図はかなりの部分で一致していると思うので、箇条書きの部分で設けるなどすると、長文でも読みやすくなるのではないかと感じた。
- ・リード文について、主語がはっきりせずわかりにくい部分があるので、もう少し推敲が必要であると感じる。各専門委員会で検討して欲しいと思う。
- ・分野ごとに書きぶりが異なるのは気になる。接続語で文章を繋いでいる分野もあれば、1つ目、2つ目と繋いでいる分野もあり、後者の方が読みやすいと感じる一方、各分野でそこに至るまでの議論の経緯や課題の違いもあると思うので、書き方や表現のレベルは精査していく必要があると感じた。
- ・施策の大綱が、施策の体系から引っ張られて、説明が羅列されているという書きぶりになっており、同じことを言っているように感じる。施策の大綱は施策の体系から少し離れて、もっと基本的な考え方を書くことができれば面白いのではないかと感じた。例えば、2の健康福祉分野においては、行政として考えなければならない地域包括ケアの推進策や、サービスの基盤整備や使いやすさなどが、総合的にどう提供されていくべきなのかということ、また、サービスが持つ予防的な側面

や家族ケアなど互助との関係を公助はどう持つかだとか、そういったことがどこかに出て来るべきなのではないかと思う。

基本計画 施策の体系図素案について

- ・体系図上で、小項目に「ア」、「イ」、「ウ」と振られているが、市民は小項目に序列や順番があるように感じて気になるのではないか。本文上で引用の必要がないのであれば、外す方が誤解がないのではないか。見出しを太字で示す程度で充分ではないか。
- ・基本計画の7つの大項目と、施策の大綱が同じであるのはわかりにくいと感じる。大項目に入るときに、文章から始まるのではなく、見出しのような形で、例えば1は「地域の環境について」などというように、市民が見たときに大項目にはどのようなこと書いてあるのかということが一目でわかるような書き方をした方がよいのではないか。
- ・7つ目の各地域に関する大項目については、今まで新市としての一体感を醸成するために頑張ってきた地域づくりの経緯や、地域庁舎の組織などを考えると、果たして必要なのだろうかと思う。
- ・鶴岡市は一つなので、一つの計画ですべての地域にあてはまるような記述をすればいいのかもしれないが、地域の多様性がある中でそれもなかなか難しいと思う。むしろ多様な地域の特性を伸ばしていくことも大切であり、前計画では基本構想の中で別立てとしていた地域振興を、新計画案では、あえて施策の大綱の項目の中に加えているという考え方に基づいて、施策の体系の素案ができていると理解している。
- ・地域によってお祭りなどの催しや文化も違うので、それらを大事にして、違う文化を尊重し合いながら新しい鶴岡市を作っていくためにも、7つ目の各地域に関する大項目も必要かと思う。
- ・地域コミュニティの項目にある住民主体の地域づくりや、地域福祉について、旧町村地域や集落単位でもやり方がそれぞれであり、地域にあった進め方にしていっていただきたい。
- ・観光振興の項目において、小項目に加茂水族館といった固有名詞が出てきているが、出羽三山やサムライゆかりシルクといった日本遺産なども加えていってもいいのではないか。総合計画にはなかなか謳えないのかもしれないが、固有名詞が出てきていないという印象がある。鶴岡市にはいろいろなオンリーワンの資源があり、それらの活用方法もこれから検討されていくものと思うが、念頭に置いていただきたいと思う。
- ・インバウンド誘客は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて喫緊の課題であると思うが、Wi-Fiや外国語キャプションの整備など、受入態勢がまだ整っていないと思う。

基本計画の取組方法 未来創造プロジェクトの設定について

- ・タイトルに「推進」や「応援」など、アクションの部分が入ったものと、項目だけになっているものが混在しているので、推進、応援、創造など、アクションを入れるならば入れる形でタイトルを整理した方が、全体的にわかりやすくなるのではないか。
- ・未来創造プロジェクトは施策の大綱にもっと組み入れるべきなのではないか。7つの施策の大綱の上に、3つのまちづくりの基本方針が出てくるが、今までの総合計画の反省を踏まえて、どのような括りとなるのかということが気になる。例えば、食文化や知的産業など大きな括りが未来

創造プロジェクトにもあり、それぞれ目標があるのだと思うが、そうした目標に向かって市民が進むようにと作るのが総合計画ではないかと思う。

- ・市民がわかりやすくこれに向かって10年間走りましょうというのがあるのはよいと思うが、どれも大切な分野ばかりであり、どうしたらいいのかなという疑問もある。
- ・せっかくプロジェクトを設定するのであれば、施策の大綱や基本計画の中に組み入れて、プロジェクトの内容もしっかり盛り込まれているという形にした方がより具体的なのではないか。
- ・若者・子育て世代の応援プロジェクトの中でも、「働く」施策や「住む」施策など、施策という言葉で完結されているものがあるが、こういった施策なのか、より具体的な説明が盛り込まれるべきではないか。
- ・未来創造プロジェクトは、各部署が横断的に関わってくるもの、いわゆる横串を刺すようなものという理解をしている。プロジェクトに関わる細かな取組は、施策の体系の中、あるいは事業の中に位置付けられていくということであり、対応がきちんとされるということが大切である。
- ・未来創造プロジェクトというネーミングが問題だと思っており、次の10年でこれを重視するのだというふうに受け取ってしまう。そうではなくて、横串でプロジェクトチームを組んでやるべきものを抽出したものであって、向こう10年間で新たなものも出てくるかもしれない。施策の大綱に書かれていることを進めていくための取組方法であり、そういった意味で構成素案の中でも基本計画の取組方法に位置付けられているのだと理解する。
- ・城下町つるおかりブランディングプロジェクトについては、城下町の風情が感じられるような鶴岡公園周辺のまちづくりを進めていただきたいと思う。また、大宝館への若者の来訪も増えているが、オンラインゲームがきっかけとのケースもあり、いま何が流行しているのかということを探っていかなければならないと思う。

計画の推進

- ・総合計画ができたところがスタートラインであって、行政と市民が一体となる上でも、行政も適材適所の人材配置をしていただき、市民も一体となって命輝く鶴岡をつくっていききたい。
- ・行政任せではなく、住民としても頑張りたくなるような、住民と行政が一緒に取り組んでいけるような計画であるとの印象を受けた。
- ・総合計画は市民のためのものであり、理解してもらえる内容でなければならない。情報発信も重要である。前計画の普及版もわかりやすかったが、学校版もあるといいのではないか。SNS、ICTの活用しながら、小学生からお年寄りまで浸透できるような総合計画にしていかなければならない。市民から参加してもらい、住みたくなるまち1番になる計画になるとよいと思う。
- ・PDCAサイクルは基本計画の取組方法にも位置付けられたが、市役所庁内でも議論されていくものと期待している。